



# 碧南ロータリークラブ週報

第2975回例会 令和3年4月21日(水)

- 会長 岡本 明弘
- 幹事 鈴木 泰博
- 会場監督(SAA) 服部 弘史

2020-2021 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 事務局 碧南商工会議所内  
TEL<0566>41-1100  
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>  
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 例会場 碧南商工会議所ホール  
〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90  
FAX<0566>48-1100



ロータリーは機会の扉を開く

- 会報委員 林 俊行・石川鋼勇・牧野勝俊

## ●本日のお弁当

小伴天

## ●本日のお客様

便教会 代表世話人 高野修滋様

## 会 長 挨 拶

皆様、こんにちは。外は初夏のような陽気になってきましたけれども、昨日から愛知県に「まん延防止等重点措置」が適用されました。変異ウイルス感染者の割合が増えてきましたので、会員の皆様にはお気を付けいただきますよう、よろしくお願ひ致します。例会の開催は昨年決めた例会基準に基づいて慎重に行っていきたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。



岡本明弘会長

4月に入りまして、いよいよ次年度が動き出してきております。次年度にバトンを渡すべく、まとめの時期に入ってきました。今年度やり残しているのが、中長期戦略会議のまとめ、春の家族会、職場例会、最終例会ということで、本日を入れまして7回の例会にお付き合いをいただきたいと思ひます。最終例会は例年と異なりまして、夜例会を予定しております。もし、コロナの影響が無いとすれば、「例会は温故知新、親睦は楽しく」で行い、次年度へバトンを渡したいと思ひております。よろしくお願ひ致します。

さて、本日は第2760地区の小冊子の話をさせていただきます。これは岡部ガバナーの肝いりの冊子ですけれども、初めて第2760地区で作られまして、恐らく全員配布になるかと思ひます。この冊子は地区内84クラブの奉仕活動と地区の委員会活動が掲載されております。本日はガバナー輩出の名古屋北RCの奉仕活動をご紹介しますと思ひます。名古屋北RCは碧南RCと同じ創立62年のクラブです。社会奉仕活動として、「児童養護施設への支援を続けて55年、自然とのふれあいを子らの思い出に」という活動です。創立5年目より名古屋市東

区の児童養護施設へ毎年プレゼントを贈ったり、スポーツイベントへの参画等の活動を行ってまいります。また、日常では出掛けることができない場所にバスで行きまして、鳥羽で地引網体験、新城で田植えと稲刈り体験、郡上八幡では森林自然体験や鮎のつかみ取り体験等、普段体験できないことをして子供たちの記憶に残り、将来に活かして貰えるようにする活動を行ってまいります。因みに碧南 RC は「創立より植樹を続けて 62 年、“温故知新”の精神で市民に奉仕」というような形で掲載させていただきました。この冊子は奉仕のアイデアが満載されておりますので、隣のクラブが何をやっているのかということが見ていただくとわかると思います。地区内の 84 クラブは、その地域に合った奉仕活動をやってみえます。そのことを会員の皆様にお伝えしまして、挨拶とさせていただきます。

本日の例会、よろしくお願い致します。

## 幹 事 報 告

幹事報告をさせていただきます。

- ・ 第 2760 地区ガバナー事務所より「第 2760 地区の活動報告小冊子」が届いております。尚、地区大会にオンサイト出席の方は会場にて配布済みのため、本日配布しておりませんので、よろしくお願い致します。
- ・ 4 月 28 日（水）は定款第 7 条第 1 節（d）（1）による休会となります。
- ・ 5 月 5 日（水）は法定休日のため、休会となります。
- ・ 次回の例会につきましては、5 月 12 日（水）になりますので、お間違いの無いようよろしくお願い致します。
- ・ 5 月 12 日（水）の例会終了後に第 11 回の理事会を開催致しますので、関係者の方はよろしくお願い致します。
- ・ 本日の例会終了後に中長期戦略会議を 202 号室にて行いますので、理事、役員の方はお集まりください。よろしくお願い致します。



鈴木泰博幹事

## 委 員 会 報 告

### <出席奨励ニコボックス委員会>

総会員数 63 名（内出席免除者 15 名の内出席者 13 名）出席者 55 名	
出席対象者 55/61 名	出席率 90.16%
欠席者 8 名（病欠者 0 名）	

### <ニコボックス>

- 加藤 良邦君 御無沙汰しています。ネクタイのしめ方忘れてしまいました。
- 黒田 昌司君 母（満 99 才）の葬儀を恙無く終えることが出来ました。

森田 雅也君 今日の卓話の講師の高野先生を御紹介いたします。  
大竹 密貴君 信貴山真言宗教化部長に再任されました。信貴山にとって来年寅年は12年に1度の重要な年。今年から再来年にかけて様々な行事が行われます。がんばるしかないです。

## クラブフォーラム

「“子どもの心に灯を点す”には」  
便教会 代表世話人 高野修滋様



高野修滋様

改めまして、こんにちは。只今ご紹介いただきました高野修滋と言います。今回、森田先生から青少年の育成についてのお話をというご依頼をいただきまして、色々と考えました。自分の経験値、あるいは成功談や失敗談があるんですけども、キーワードは「自主性を育てる」と「心の重心を低くする」ということです。自主性を育てるというのは、子供たちだけじゃなく、私たち大人もそうなんですね。そのためには教える側、導く側の心の重心が低くないといけないなと思います。

私は英語の教師をしておりましてけれども、42歳までは本当に高圧的であり、傲慢、高慢で、英語を教えているのではなくて、エゴを教えていたんだということを思い知らされました。42歳の時に何があったかと言いますと、病気になりまして、その時にある方から「掃除をすると感動するよ。」ということでお誘いを受けました。生きるか死ぬかの病気になっていましたので、正直、嫌で嫌でしょうがなかったんですけども、碧南の日進小学校に行って掃除をしました。それが私の転機になった訳ですけども、そこで色々と学んでいく中で、今までの自分の生き方は上から目線だったということに気が付きました。皆様方のお手元の資料にあるかと思うんですけども、佐藤一斎さんの「晦に処る者は能く頭を見、頭に抛る者は晦を見ず。」という言葉があるんですね。どういう意味かと言いますと、「暗いところにいる人は明るいところにいる人がよく見えるが、明るいところにいる人は暗いところにいる人を見ることができない。」ということで、違った見方をすれば、「下にいる人は上の人のがよくわかるが、上にいる人は下の人のがわからない。」ということなんですね。そういうことに初めて気が付いたんです。私のように42歳まで自己中でやってきた人間は、死ぬほどの病気になる、投獄される、経営者であれば会社が倒産するということが無ければ変わることができません。要するに追い込まれないと変わることができないということです。

私は2000年に碧南高校に転勤して参りました。前の学校では掃除をやって生徒に働きかけてきまして、碧南高校でも発信しようとした訳ですが、職員会議で反対されました。宗教じゃないかだとか、心を磨くとはどういうことなのかだとか言われまして、何も言えなくて我慢していただけでした。そんな状況から始まって、何とかそれでも生徒と感動を共有できるように働きかけていきたいなと思っていましたので、一生懸命良さを伝えていきました。ここで私が思ったのは、先生の熱量は子供に伝わるということでした。私はずっと英語を教えていたけれども、英語だけの尺度で見れば、英語ができれば成績が良い、できなければ成績が悪

いということになります。しかし、人間は1つの尺度だけじゃなくて、色々な尺度で見なければならぬと思います。42歳を転機に人間が人間力を増していくため、あるいは子供たちが高校を卒業して社会に出た後に実際に人の役に立つためにはどうしたら良いかということを考えるようになったんですね。そのために考えたことは、私たちは日々生活しており、朝起きて夜寝るまで活動している訳ですけれども、それが習慣になります。良い習慣を付けることが良い人生になる訳です。碧南高校から就職する生徒が何人かいます。その生徒が企業に入った時に役に立つ人間になるためには、挨拶ができる、時間を守れる、掃除ができるという3つのことが大切だと思ったんですね。そういうことを徹底してやっていかなければいけないということで、最初に私が生徒に実践させたことは、教室環境を整えることです。環境によって人は作られるということで、その時の合言葉は「教室は入学式で生徒を迎えた時と同じ状態に保つ」でした。毎日毎日繰り返しやることで、させる掃除から生徒が自ら気付く掃除に変化していきました。自分のやることが明確になっていき、誰かに指示される前にやるということが習慣付けられる訳です。それがやる気に繋がり、自主性が育ちます。

自主性を育てるには掃除、または小さな課題を与えてあげることなんですね。例えば、小学生の男の子に新聞を取ってきてとお願いして、取ってきてくれたら褒めてあげる。そういう小さな課題を1つずつクリアしていくことによって、段々と自分で動けるようになってくるんですね。大事なことは具体的な課題を与えて、それを可視化してあげることなんですね。それで模範として、掃除であれば、やり方や使う道具をある程度教えてあげるんですね。その時にやってくれたら褒めるということです。大事なのは「きれいを広げる」ということに気が付いたんです。掃除という感覚で見ると、やっていないところに目が行ってしまうんですが、きれいになったところを評価してあげることによって、掃除した人の心の中、考え方の中にきれい広がっていくんです。行動と心は連動していて、ごみを捨てる人は心がきつと汚れているでしょう。きれいにする人は心もきれいなんです。だから、評価する時にはダメ出しはNGなんですね。「善友は助け合って成長し、悪友は誘い合って墮落する。」という言葉がイエローハット創業者の鍵山秀三郎さんから教えていただきました。掃除をやってくれいになっていくと、どんどん自分の良いところが出てきて、人の良いところが見ることができるんです。だから、エネルギーが上に向くのか下に向くのかというのは大きな違いで、学校や会社の将来に関わることだと思います。

現在、コロナで社会が段々と変わってきておりますけれども、世界的な部分で言えば、「SDGs」というのがありますね。それは何かと言ったら、「貧困をなくそう」、「飢餓をゼロに」、「すべての人に健康と福祉を」など、17の大きな目標とそれらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されている訳です。そんな大きなことを我々には到底できないと思うんですけれども、本を正せば小さなことなんですね。一人一人の意識が変わっていくことが非常に大事なことだと思います。だから、SDGsを別の言葉で言えば、「人材育成」だろうなと私は思います。ですが、人を育てることは本当に難しいと思います。人を育てるために芸術活動、スポーツ、奉仕活動など、色々なことがあります。そういうものを通して、挨拶をする、時間を守る、掃除をするということを繰り返しやっていく。そのためには導く人間が体の重心を低くすることによって、心の重心も低くしなければなりません。これが非常に大事

なことだと思えます。

最後になりますが、自主性を育てるには、小さなことを積み重ねていく、具体的な課題を与える、褒めてあげるということをやっていけば、必ず人間は変わります。大人になっても褒められるのは嬉しいものです。人間が変われば、学校や企業も変わっていきます。そういった人がどんどん増えていって、世の中が活気に溢れていってくれたら良いなと思えます。

ご清聴ありがとうございました。

## 次回例会案内

令和3年5月19日（水） クラブフォーラム「地区研修・協議会報告」